# 富山大学附属病院
# 第94回 地域医療連携セミナー

- 日　　時 ：令和8年1月15日（木）19:00−20:00
- 開催形式：ハイブリッド開催
- 対面会場：富山大学附属病院 総合臨床教育センター2階 多目的研修室
- 担当科　：臨床研究開発推進センター
- テーマ　：「臨床研究の取り組み」

## 1. 「口腔感染症を考える
## ～周術期の合併症予防、高齢者肺炎予防、顎骨壊死予防のこれまでとこれから～」

臨床研究開発推進センター 教授 五月女さき子

## 2.「当科が取り組む耳鳴研究
## ー耳鳴に対するニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)の有効性の検討ー」

耳鼻咽喉科頭頸部外科 講師 髙倉大匡

●本セミナーにご参加、ご視聴いただいた先生方は、日本医師会生涯教育制度についての単位取得ができます。（15:1単位）

【ご希望の参加形式を選択の上、事前申し込みのお願いをいたします】

＜会場参加を希望＞　＜Web参加を希望＞

お問い合わせ先：富山大学附属病院医療福祉サポートセンター

076-415-8816 renkei@med.u-toyama.ac.jp

# テーマ：臨床研究の取り組み

## 「口腔感染症を考える
## ～周術期の合併症予防、高齢者肺炎予防、顎骨壊死予防のこれまでとこれから～」

**臨床研究開発推進センター　教授　五月女さき子**

口腔の健康はう蝕や歯周病の予防だけではなく、高齢者の誤嚥性肺炎の予防、糖尿病・虚血性心疾患・慢性関節リウマチ・低体重児出産・感染性心内膜炎などさまざまな疾患の治療に役立つことが知られています。

また良好な口腔環境を維持することによりがん治療をはじめとする周術期の有害事象のリスクが減少することが明らかとなってきています。これまで口腔感染症予防法としては、感染源と考えられてきた歯垢や歯周ポケット内の細菌を除去することが中心に行われてきました。しかし歯垢が誤嚥性肺炎の原因であるならば無歯顎者の肺炎リスクは低くなるはずですが、実際には無歯顎者のほうが肺炎発症率は高いとの報告もあります。

本講演では私どもの研究グループで行ってきた研究をご紹介し、地域連携や臨床研究の必要性をお伝えします。

## 当科が取り組む耳鳴研究
## －耳鳴に対するニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)の有効性の検討－

**耳鼻咽喉科頭頸部外科　講師　髙倉大匡**

耳鳴は加齢とともに増加し、本邦では約300万人程度の患者がいると推定されています。薬物治療は最も一般的に行われている耳鳴治療ですが、満足な効果が得られない症例も多くみられます。最も汎用されている治療薬は、ニコチンアミドを含有するストミンA®です。ニコチンアミドは、吸収されると生体内で補酵素であるニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NAD）へと変換されますが、このNADが抗老化作用や内耳・聴神経に対する保護作用を有することが知られています。ニコチンアミドモノヌクレオチド（NMN）はニコチンアミドより合成されるNAD前駆体であり、生体内ではニコチンアミドよりもNADへの変換効率が良いとされています。また、健常者にNMNを経口投与すると、副作用なく生体内NAD濃度を優位に上昇することもわかっています。

そこで当科では、富山大学附属病院臨床研究開発推進センターの支援のもと、感音難聴を伴う耳鳴患者に対するNMNの有効性を検討する特定臨床研究に取り組んでいます。本講演では、本研究の内容や同センターによる研究支援についてご紹介させていただきます。